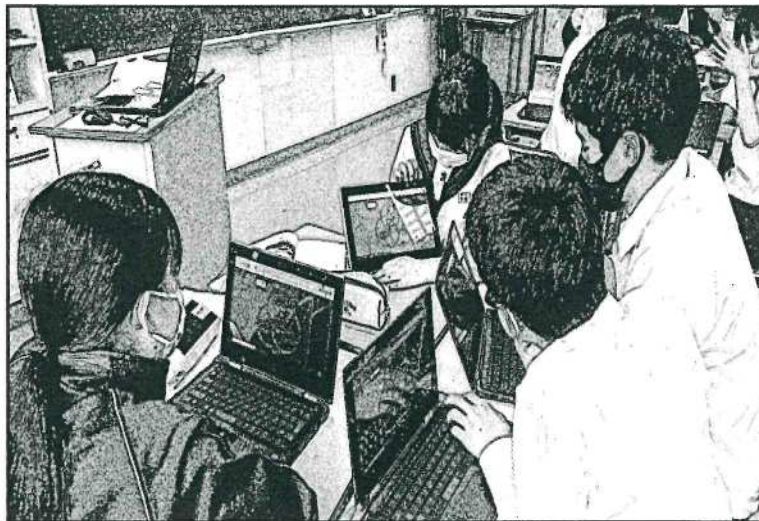


令和 3 年度
全国学力・学習状況調査結果分析
(始良・伊佐地区)



令和 4 年 2 月
始良・伊佐教育事務所

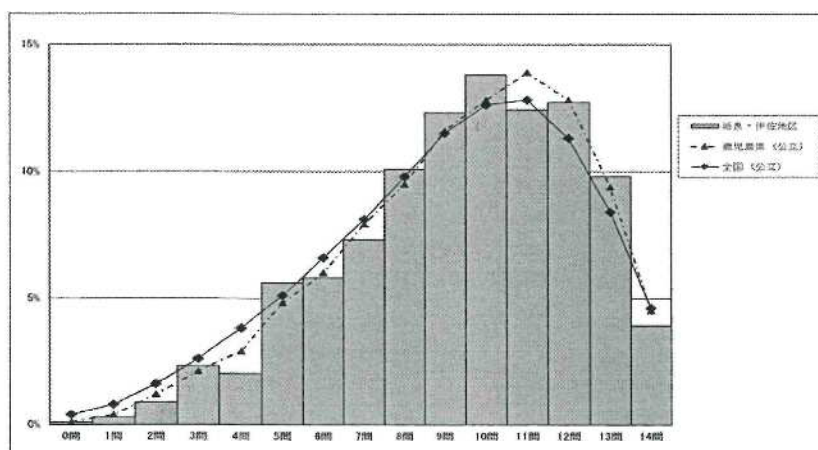
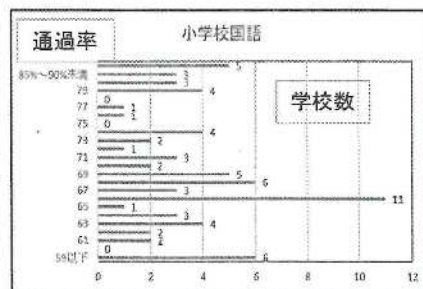
令和3年度教科別結果 小学校国語

1 本地区の学力に関する実態 (1) 正答率について

	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	最頻値
始良・伊佐地区	2,133	9.3/14	67	10問
鹿児島県(公立)	13,892	9.4/14	67	10問
全国(公立)	993,975	9.1/14	64.7	9問

【概況】

- 全国平均を上回った分野
「書くこと」(全国比+7.1), 「読むこと」(全国比+0.8)
- △ 全国平均を下回った分野
「話すこと・聞くこと」(-0.5)



正答数	割合(%)		
	地区	鹿児島県(公立)	全国(公立)
14問	4.0	4.5	4.6
13問	9.8	9.4	8.4
12問	12.7	12.8	11.3
11問	12.4	13.9	12.8
10問	13.8	12.8	12.6
9問	12.3	11.6	11.5
8問	10.1	9.5	9.8
7問	7.3	7.9	8.1
6問	5.8	6.0	6.6
5問	5.6	4.8	5.1
4問	2.6	2.9	3.8
3問	2.3	2.1	2.6
2問	1.0	1.2	1.6
1問	0.3	0.4	0.8
0問	0.1	0.1	0.4

(3) 問題別集計結果

領域	話すこと・聞くこと				読むこと				書くこと				言葉の特徴や使い方にに関する事項				
問題番号	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	(1)ア	(1)ウ	(1)エ	(2)イ	(2)オ
全国	77.5	74.9	81.0	77.6	87.5	34.4	29.7	64.8	56.6	78.3	54.4	79.0	78.3	54.4	79.0	67.0	43.6
県	78.0	73.8	80.6	72.3	85.7	37.7	33.4	69.7	66.5	81.9	53.7	85.5	81.9	53.7	85.5	76.7	41.3
地区	76.0	74.7	81.2	71.2	86.1	38.7	34.2	68.7	66.9	82.4	49.6	85.1	82.4	49.6	85.1	78.1	41.1
全国差	-1.5	-0.2	0.2	-6.4	-1.4	4.3	4.5	3.9	10.3	4.1	-4.8	6.1	11.1	-4.8	6.1	11.1	-2.5

【概況】

- 「書くこと」: 相手を説得する文章を書かせる問題で、全国を大きく上回った。
- △ 「話すこと・聞くこと」: 目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考える問題、資料を用いた目的を理解する問題に課題あり。
- △ 「読むこと」: 文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握する問題に課題あり。

2 具体的な取組

※ 全国学力・学習状況調査等の結果資料等を活用し、指導の妥当性を確認するとともに、思考量や表現量を加味した「力強い授業」づくりを推進する。

【話すこと・聞くこと】

- ・ 話し合いの目的を児童にしっかりと理解させ、話し合いの様子をタブレット等で録画し、目的を達成しているか検証する。
- ・ テーマを設定し、スピーチをする活動を行う。その際、聞く側は、話の中心、参考となるところをメモとり、相互に交流する。

【書くこと】

- ・ 時間と字数を設定した書く活動の充実並びに教師の確実な見届けを行う。
- ・ 書いた文章を交流し、互いに感想や改良点等を述べる。(タブレット等の活用)

【読むこと】

- ・ 書かれている内容に対する自分の考えや意見をまとめ、交流する。
- ・ 並行読書等、読書活動を充実させる。

3 参考資料

独立行政法人教職員支援機構(NITS) オンライン研修No.17, 37

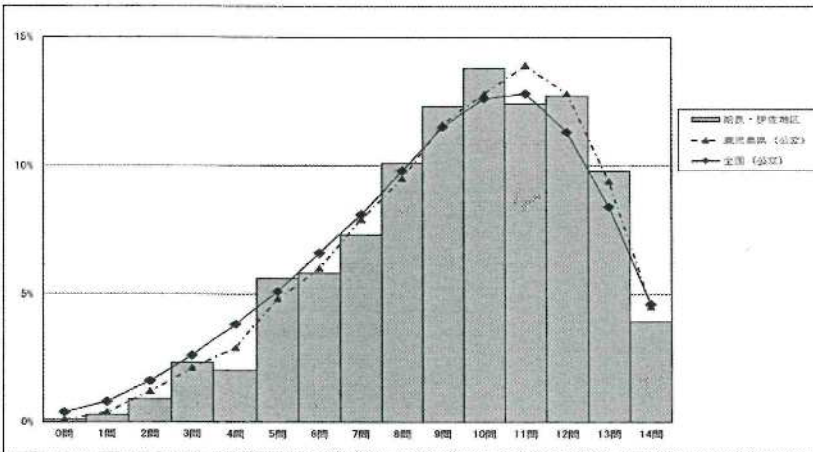
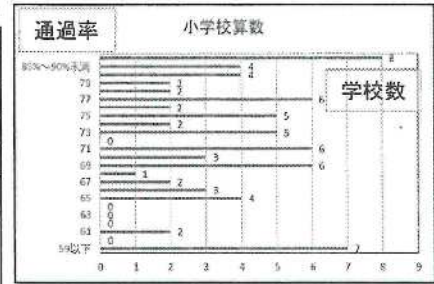
令和3年度教科別結果
小学校算数

1 本地区の学力に関する実態
(1) 正答率について

	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	最頻値
始良・伊佐地区	2,133	11.5/16	72	12問
鹿児島県(公立)	13,899	11.4/16	71	12問
全国(公立)	994,101	11.2/16	70.6	12問

【概況】

- 全国平均を上回った分野
「数と計算」(全国比+3.6), 「図形」(全国比+3.1)
- △ 全国平均を下回った分野
「変化と関係」(-2.1)



正答数	割合(%)		
	地区	鹿児島県(公立)	全国(公立)
16問	6.6	7.5	7.8
15問	12.0	11.7	11.4
14問	13.3	12.9	12.1
13問	11.8	12.1	11.5
12問	12.7	11.5	10.6
11問	10.6	9.7	9.6
10問	7.5	8.1	8.4
9問	6.4	6.8	7.1
8問	5.7	5.5	5.8
7問	4.3	4.4	4.7
6問	3.0	3.3	3.6
5問	2.6	2.3	2.7
4問	1.3	1.6	1.9
3問	0.9	1.2	1.3
2問	0.6	0.7	0.8
1問	0.5	0.4	0.5
0問	0.1	0.2	0.3

(3) 問題別集計結果

領域	変化と関係			測定			図形・測定			データの活用			数と計算		
	1 (1)	1 (2)	1 (3)	1 (4)	1 (5)	2 (1)	2 (2)	2 (3)	3 (1)	3 (2)	3 (3)	3 (4)	4 (1)	4 (2)	4 (3)
全国	62.5	86.7	55.8	89.2	85.1	55.1	72.5	46.0	95.8	90.7	67.5	52.0	73.9	83.0	55.5
県	67.4	85.3	50.4	89.4	85.4	59.5	73.0	51.2	96.4	90.5	68.6	51.5	72.6	84.4	57.9
地区	67.2	85.0	50.6	89.6	86.3	59.6	72.1	51.3	96.7	91.3	69.0	53.3	72.4	85.4	58.1
全国差	4.7	-1.7	-5.2	0.4	1.2	4.5	-0.4	5.3	0.9	0.6	1.5	1.3	-1.5	2.4	2.6

【概況】

- 「データの活用」：ほとんどの問題で全国・県の平均を上回った。
- △ 「変化と関係」：1(2), (3)については、二つの道のりの差を求めるために必要な数値を選び、その求め方と答えを記述する問題、速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察する問題に課題あり。
- ※ 令和2年度の鹿児島県学習定着度調査でも類似問題が出題されており、その際は通過率が県よりも高かった。今回、全国県を下回っている。再度定着をしっかりと図る必要がある。

2 具体的な取組

※ 全国学力・学習状況調査等の結果資料等を活用し、指導の妥当性を確認するとともに、思考量や表現量を加味した「力強い授業」づくりを推進する。

【図形】

- ・ できない分野について、補充学習や個別学習をするなど、確実な理解につなげる。

【データと活用】

- ・ グラフやデータについて、何を読み取ればよいかを繰り返し取り組む時間をつくる。

【変化と関係】

- ・ 「道のり・速さ・時間」に関する問題に課題があるので、苦手意識をなくすために、再度学習する時間を設定したり、問題に取り組んだりするなど、確実に力を付けるようにする。
- ・ 文章題を学習課題や発展課題等に取り入れた授業を展開する。
- ・ 教師がポストテスト等で、児童に確実に力が身に付いているかを確実に見届ける。

3 参考資料

独立行政法人教職員支援機構(NITS) オンライン研修No.14, 38

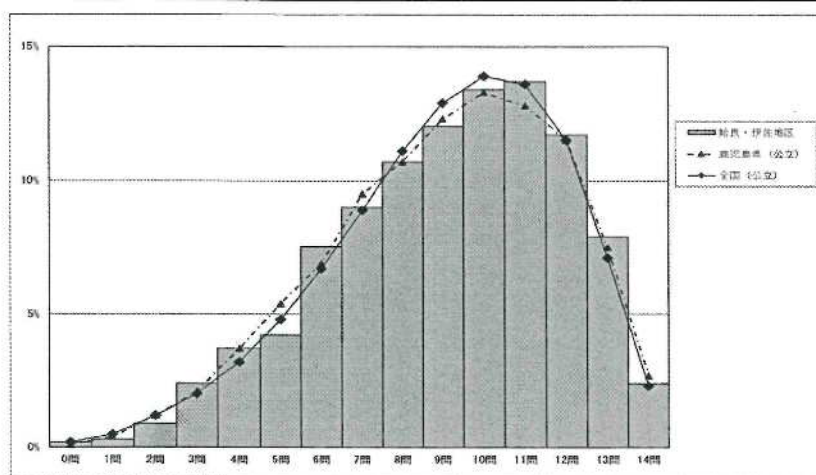
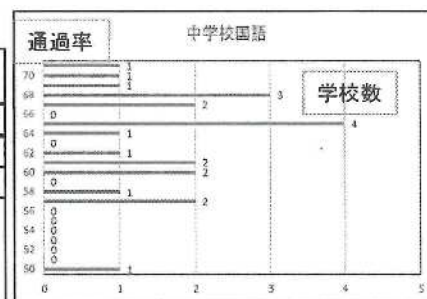
令和3年度教科別結果 中学校国語

1 本地区の学力に関する実態 (1) 正答率について

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	最頻値
始良・伊佐地区	1,847	9.1/14	65	9問
鹿児島県 (公立)	12,879	9.0/14	64	9問
全国 (公立)	903,157	9.0/14	64.6	9問

【概況】

- 全国平均を上回った分野
「話すこと・聞くこと」(全国比+0.4), 「読むこと」(全国比+1.0)
- △ 全国平均を下回った分野
「書くこと」(全国比-0.9)



正答数	割合 (%)		
	地区	鹿児島県 (公立)	全国 (公立)
14問	2.4	2.7	2.3
13問	7.9	7.5	7.1
12問	11.7	11.5	11.5
11問	13.7	12.8	13.6
10問	13.4	13.3	13.9
9問	12.0	12.3	12.9
8問	10.7	10.7	11.1
7問	9.0	9.5	8.9
6問	7.5	6.9	6.7
5問	4.2	5.4	4.8
4問	3.7	3.7	3.2
3問	2.4	2.1	2.0
2問	0.9	1.2	1.2
1問	0.3	0.4	0.5
0問	0.2	0.1	0.2

(3) 問題別集計結果

領域	話すこと・聞くこと			書くこと		読むこと				伝言				書くこと
問題番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
全国	89.7	92.5	57.1	24.8	74.5	43.7	58.7	71.0	20.5	97.5	88.8	74.0	40.3	71.9
県	89.1	92.6	56.2	23.6	74.1	41.3	56.4	68.8	27.5	97.7	86.9	69.2	45.0	72.9
地区	86.6	89.2	56.3	20.9	71.1	41.1	55.0	67.5	28.7	93.9	83.8	67.5	44.6	71.2
全国差	-3.1	-3.3	-0.8	-3.9	-3.4	-2.6	-3.7	-3.5	8.2	-3.6	-5.0	-6.5	4.3	-0.7

【概況】

- 「話すこと・聞くこと」：これまで継続して出題されている問題であり、全国平均を上回った。
- △ 「読むこと」：文脈の中における語句の意味を理解する問題、場面の展開、登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解する問題、登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する問題に課題あり。
- △ 「書くこと」：書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書く問題に課題あり。

2 具体的な取組

※ 全国学力・学習状況調査等の結果資料等を活用し、指導の妥当性を確認するとともに、思考量や表現量を加味した「力強い授業」づくりを推進する。

【話すこと・聞くこと】

- ・ 目的とゴールを明確にした話し合いを行う機会を増やす。(他の領域の授業でも積極的に行う。)
- ・ 相手の立場や考えをしっかりと受け止め、それに対しどのように考えたか意見を述べたり、質問・助言したりするなどの機会を増やす。

【書くこと】

- ・ 日常生活・社会生活の中から、テーマを設定して書く活動を充実させる。(相手意識・構成・表現の工夫)
- ・ 時間や字数を制限して、条件の中で自分の考えや意見を書く活動を「読むこと」等の学習にも取り入れる。

【読むこと】

- ・ 文学的文章の学習について、登場人物の心情の変化等を捉える学習の工夫(発言や行動の変化を探る等)をする。
- ・ 言語活動例にもあるが、読んで理解したことを解説したり、感想等を含めて伝え合ったりするなどの活動をする。
- ・ 並行読書や読書活動の充実を図る。

3 参考資料

独立行政法人教職員支援機構 (NITS) オンライン研修No.22, 49

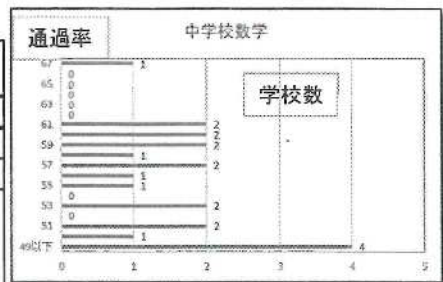
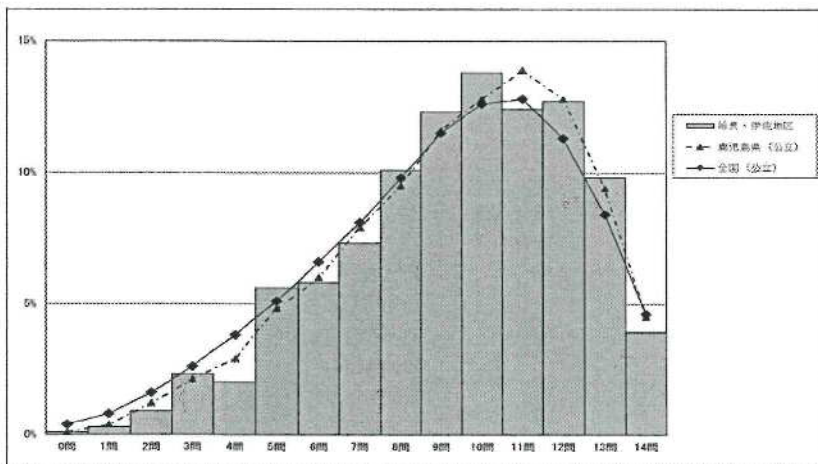
令和3年度教科別結果 中学校数学

1 本地区の学力に関する実態 (1) 正答率について

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	最頻値
始良・伊佐地区	1,848	9.0/16	56	9問
鹿児島県 (公立)	12,897	9.0/16	56	9問
全国 (公立)	903,253	9.1/16	57.2	9問

【概況】

- 全国平均を上回った分野
「関数」(+0.4), 「変化と関係」(+0.2)
- △ 全国平均を下回った分野
「数と式」(全国比-2.0), 「図形」(全国比-2.3)



正答数集計値			
正答数	割合 (%)		
	地区	鹿児島県 (公立)	全国 (公立)
16問	1.4	1.1	1.4
15問	3.3	3.6	4.1
14問	5.9	6.3	6.6
13問	7.7	8.0	8.6
12問	9.8	9.8	9.8
11問	10.3	10.0	10.1
10問	10.2	9.9	9.9
9問	9.5	9.5	9.1
8問	8.2	8.4	8.2
7問	6.1	7.7	7.3
6問	6.9	7.0	6.5
5問	7.4	6.1	5.6
4問	5.3	4.8	4.6
3問	3.6	3.5	3.5
2問	2.1	2.1	2.4
1問	1.4	1.6	1.6
0問	0.9	0.7	0.9

(3) 問題別集計結果

領域	数と式		関数	資料の活用	数と式			関数		資料の活用			図形			
問題番号	1	2	3	4	5	6 (1)	6 (2)	6 (3)	7 (1)	7 (2)	8 (1)	8 (2)	8 (3)	9 (1)	9 (2)	9 (3)
全国	77.1	71.3	68.1	48.0	84.5	83.9	61.8	30.3	93.5	27.7	83.0	36.8	11.1	44.3	64.3	28.8
県	76.3	68.7	67.6	49.5	84.6	83.5	61.2	28.8	93.1	27.4	83.7	39.2	10.3	40.9	62.6	26.5
地区	76.1	68.4	66.8	49.4	81.7	83.4	58.4	28.3	92.6	28.2	83.7	39.2	11.4	39.5	63.8	26.3
全国差	-1.0	-2.9	-1.3	1.4	-2.8	-0.5	-3.4	-2.0	-0.9	0.5	0.7	2.4	0.3	-4.8	-0.5	-2.5

【概況】

- 「資料の活用」: ヒストグラムからある階級の度数を読み取る設問, 相対度数の必要性和意味を理解する設問については全国平均を上回った。
- △ 「数と式」: 1次方程式をつくる設問に課題あり。
- △ 「図形」: 平行四辺形になるための条件を用いて, 四角形が平行四辺形になることの理由を説明する設問, ある条件の下で, いつでも成り立つ図形の性質を見だし, それを数学的に表現する設問に課題あり。

2 具体的な取組

※ 全国学力・学習状況調査等の結果資料等を活用し, 指導の妥当性を確認するとともに, 思考量や表現量を加味した「力強い授業」づくりを推進する。

【数と式】

- ・ 補充指導や家庭学習等をととして, 計算力を高める取組を図る。
- ・ 課題の続く1次方程式については, プレテストで取り組んだり, 各学期のテストで出題したりするなど, 定着に向けた工夫を図る。

【資料の活用】

- ・ ヒストグラムを読み取ることに慣れさせるとともに, 今後は「箱ひげ図」を作成したり, 読み取ったりする力を高める。

【図形】

- ・ 図形の証明問題は演繹的思考にふれる機会でもあるので, 書いて説明する機会を増やすとともに, 証明問題を解く力を高める。
- ・ 図形が成り立つ条件を基にした問題を, 各学期のテストで出題したり, 家庭学習の課題にしたりする。

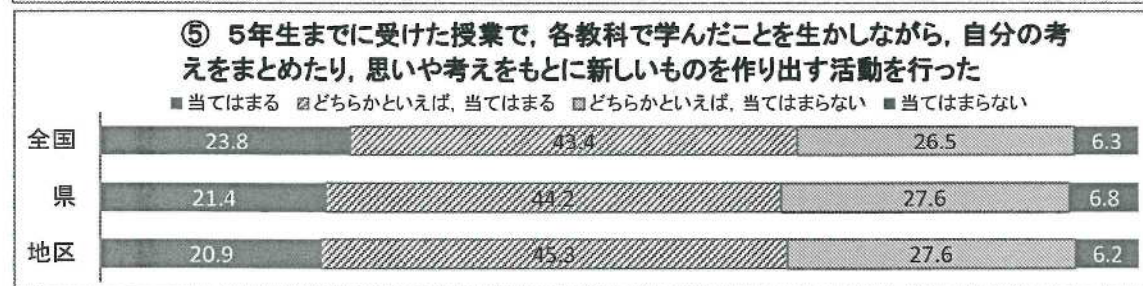
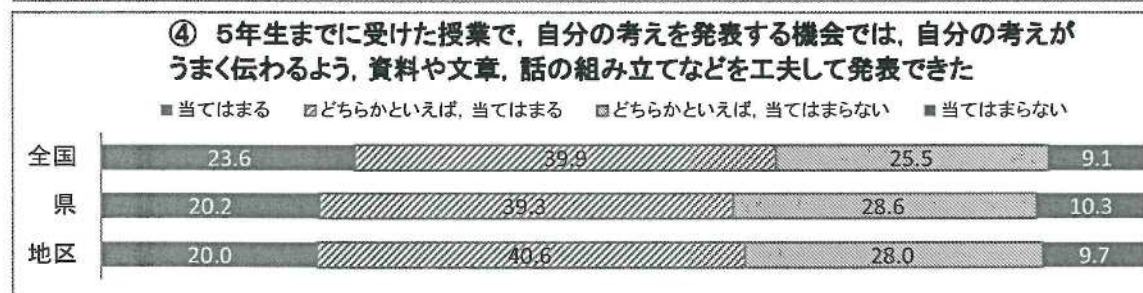
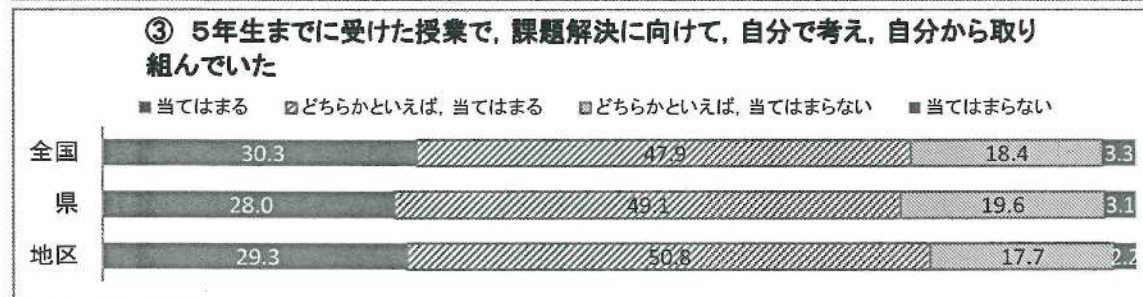
【関数】

- ・ 関数の授業でポストテストを実施し, 学力が定着しているかを見届ける。

3 参考資料

独立行政法人教職員支援機構 (NITS) オンライン研修No.23, 53

【小学校】児童質問紙から(抜粋)



【概況】

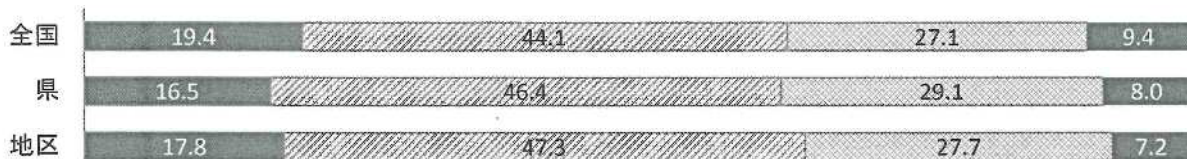
○ 県平均、全国平均を下回っているのは、④「自分の考えがうまく伝わるよう工夫して発表できた」、⑤「学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめたり、新しいものを作り出す活動を行った」に「当てはまる」と回答した児童の割合であった。

○ 学校では、授業で自分の考えをしっかりとめて発表できるよう、児童が考えをまとめさせる時間を確保し、互いに交流・共有するなど工夫しながら指導の充実を図る必要がある。

【中学校】生徒質問紙から(抜粋)

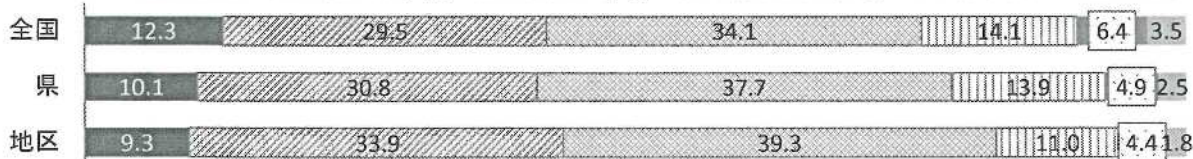
① 家で、自分で計画を立てて勉強している

■ している ▨ どちらかといえば、している □ あまりしていない ■ 全くしていない



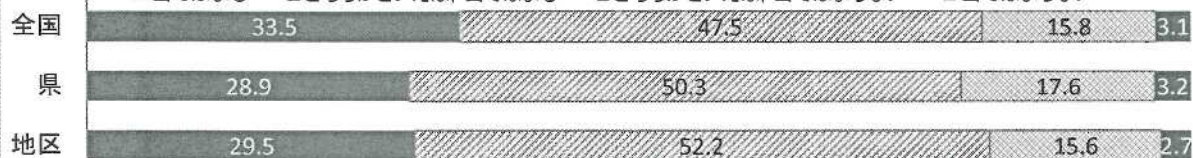
② 学校の授業以外に、普段(月～金曜日)、1日あたりどれくらいの時間勉強をしているか

■ 3h以上 ▨ 2h以上3h未満 □ 1h以上2h未満 ▤ 30分以上1h未満 ■ 30分未満 ■ 全くしない



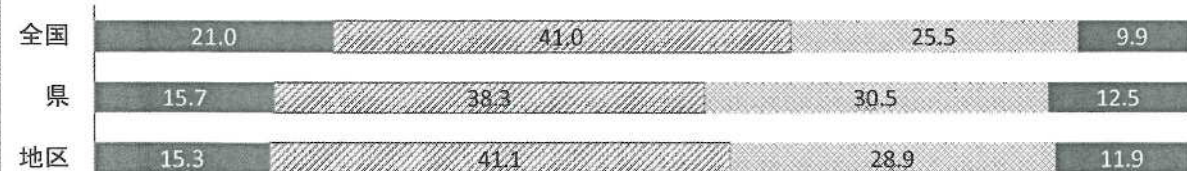
③ 1・2年生までに受けた授業で、課題の解決に向けて、自ら考え、自分から取り組んでいた

■ 当てはまる ▨ どちらかといえば、当てはまる □ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない



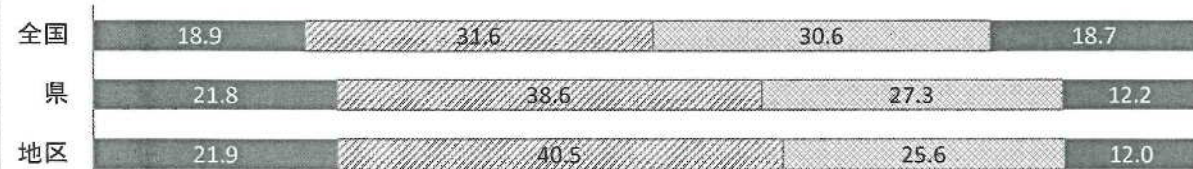
④ 1・2年生までの授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表した

■ 当てはまる ▨ どちらかといえば、当てはまる □ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない



⑤ 1, 2年生までに受けた授業で、各教科で学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめたり、思いや考えを基に新しいものを作り出す活動を行った

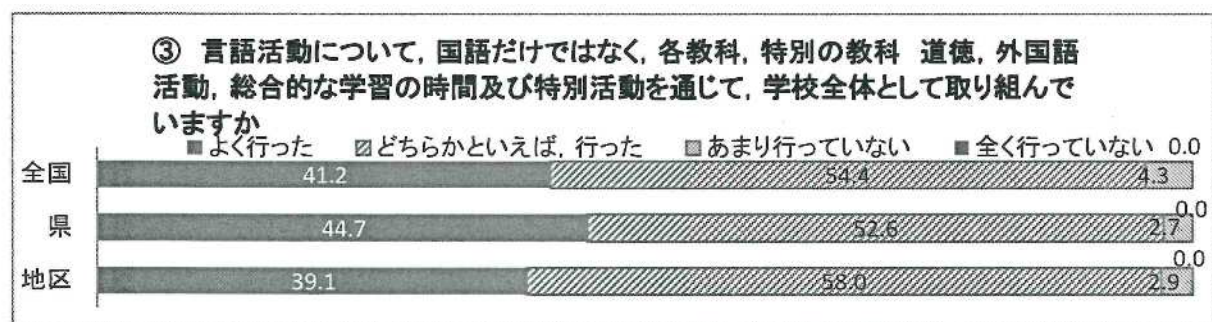
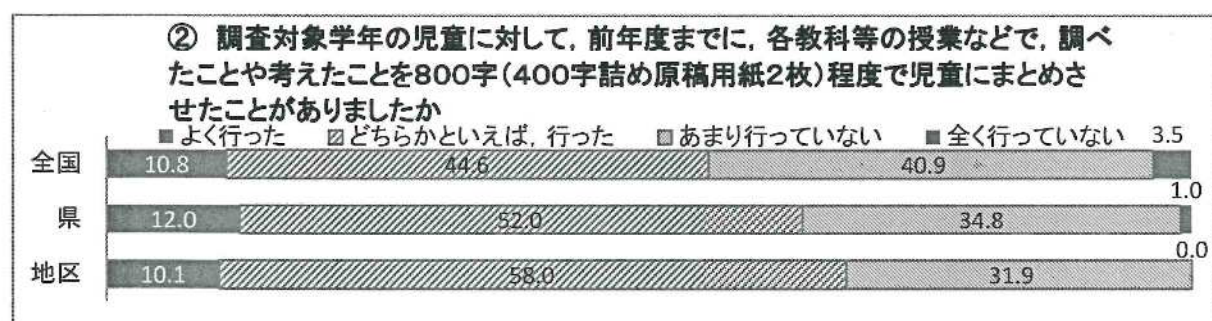
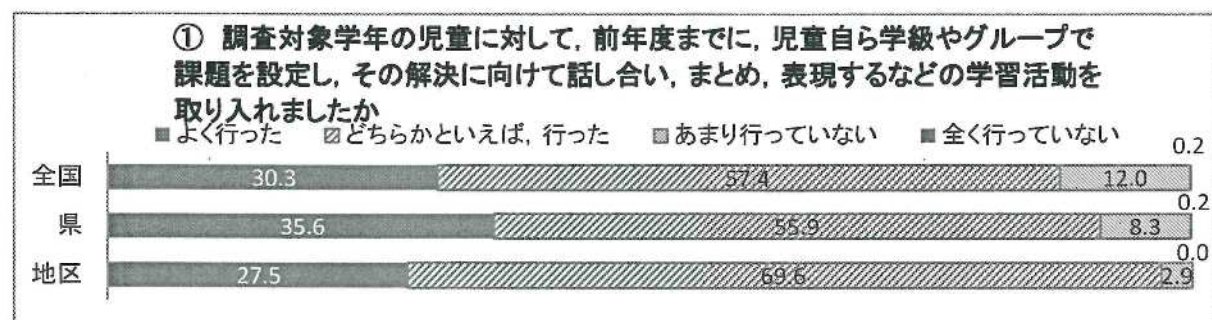
■ 当てはまる ▨ どちらかといえば、当てはまる □ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない



【概況】

- ④「自分の考えを相手にうまく伝わるよう工夫して発表をしていたか」という質問に対して「当てはまる」と解答した生徒の割合は、全国、県と比較しても低い。
- 自分の考えや意見を相手に伝わるよう発表できるよう、国語だけでなく、すべての教科で取り組むとともに、交流や共有を通して練り合う等、授業改善を図る必要がある。

【小学校】学校質問紙(抜粋)



【概況】

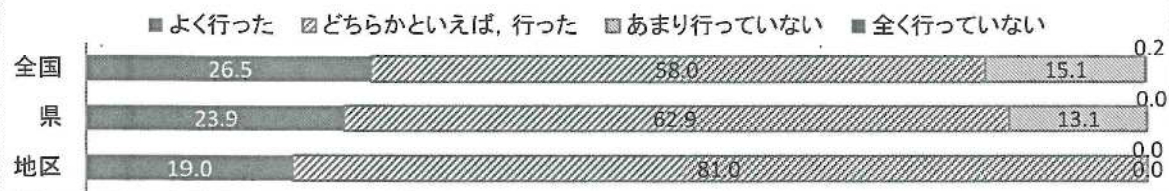
○ 本地区の課題である、「書くこと」の取組状況を学校質問紙から見ていくと、上記3問中、「よく行った」と回答した学校が、全国、県の平均と比較すると低いことが分かる。

【各学校で取り組むべきこと】

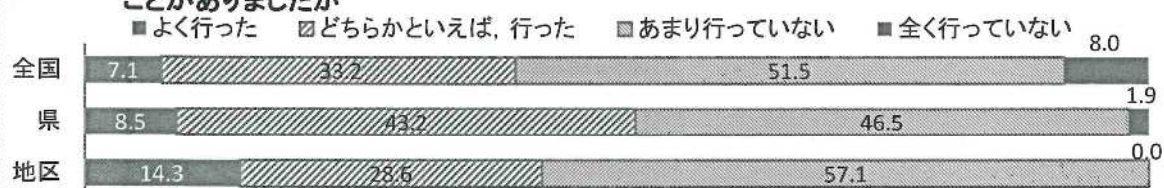
- 決められた時間内に書く活動を取り入れた授業の充実
- 決められた字数で書く活動を取り入れた授業の充実
- 自分の考えや意見を「書く」場の意識的な設定(全教科)
- 「書くこと」の力を高める活動の継続

【中学校】学校質問紙(抜粋)

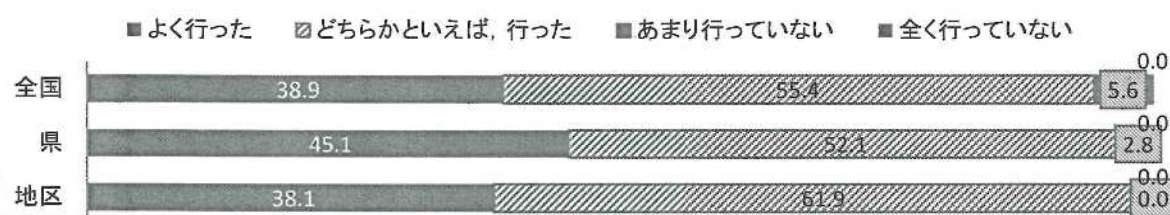
① 調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、授業において、生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか



② 調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、各教科の授業などで、調べたことや考えたことを1200字(400字詰め原稿用紙3枚)程度で生徒にまとめさせたことがありましたか



③ 言語活動について、国語だけでなく、各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいますか



【概況】

○ 本地区の課題である、「書くこと」の取組状況を学校質問紙から見ていくと、上記3問中、①と③の質問に対して「よく行った」と回答した学校が、全国、県の平均と比較すると低いことが分かる。

【各学校での取組】

- 決められた時間内に書く活動を取り入れた授業の充実
- 決められた字数で書く活動を取り入れた授業の充実
- テーマを設定した「ミニ意見文」の取組
- 国語以外の教科でも「書くこと」の力を高める活動を取り入れた授業
(例: 数学の解法の説明, 理科の実験のまとめ等)